

令和6年度 環境教育の取組例

学校名

松阪市立香肌小学校

学 年 等	活 動 内 容
1～4年生	<p>櫛田川へのアマゴの稚魚放流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの町の美しい環境や生物資源を守る意識を高めるため、地域の川に行って、アマゴの稚魚を放流する。 ・ 自分たちの町の自然を守るために取り組んでいる人や取組について知る。 ・ 櫛田川沿いの学校の共同の取組として、宮前小学校の1・2年生と一緒にを行う。 <p><子どもたちの感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アマゴに初めて触ることができて、うれしかった。 ・ 大きくなって戻ってきてほしい。
5・6年生	<p>アマゴ釣り体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの町の豊かな自然環境のありがたさを知り、守ろうとする意識を高めるため、地域の川に行って、アマゴ釣りをする。 ・ 地域の漁協や蓮ダム管理事務所の方など、自分たちの町の自然を守るために取り組んでいる人や取組について知る。 <p><子どもたちの感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの学校の近くにこんな自然があるのが嬉しい。
全校児童	<p>530運動</p> <p>① 図書・環境委員の児童が、530運動の意味や目的を説明する。</p>



② 昼休みに学校周辺の道路を縦割り班で分かれてごみ拾いをする。

③ 翌日に、図書・環境委員の児童が集めたごみをまとめて、重さを量る。

もえるごみ：720g もえないごみ：2470g



④ 図書・環境委員の児童が、ごみの重さや感想を発表する。



<委員の感想>

- ・ どうして、こんなところにごみが落ちているのだろうと、捨てた人を怒りたくなつた。
- ・ 去年より、ごみの量が多い。どうして、ごみを捨てる人がいるんだろう。
- ・ 今までごみが落ちていることを気にしていなかったけど、じっくり見ると落ちていることにおどろいた。
- ・ みんなでがんばって落ちているごみを拾うことができ、うれしかった。

令和6年度 環境教育の取組例

学校名

明和町立斎宮小学校

学年等	活 動 内 容
1年	<p>【生活】</p> <p>あさがおの水やりにペットボトルを利用している。家からペットボトルを持ってきて、そのペットボトルにあさがおの水やりの蛇口がついたものをつけ、毎朝水をあげている。植物のあさがおを育てることで子どもたちは、自然に親しみ、自分の育てているあさがおが咲くたびに、とても喜んでいた。あさがおの花で、「こすり花」や「色水」を作り、植物で遊ぶ経験もした。</p> 
2年	<p>【生活】</p> <p>トマトの水やりにペットボトルを利用している。家から持ってきたペットボトルに蛇口をつけ、毎日水やりをしている。子どもたちは、トマトが育つ様子を観察し、収穫できる喜びを感じながら育てている。</p> <p>【生活】</p> <p>校舎裏の畑で夏野菜を育てている。地域の方に畑の準備等で協力をしていただき、苗を植え、草取りなどをした。土にいる虫を見つけたり、土の柔らかさを感じたりしていた。また、実際に野菜のできる様子を見て、収穫の喜びを感じることができた。</p> 
3年	<p>【理科】「チョウを育てよう」</p> <p>モンシロチョウを卵から飼育し、羽化するまでの様子を観察した。サナギから羽化したときには、卵から育てていたこともあり、子どもたちはとても感動している様子だった。モンシロチョウの飼育・観察を通して、身近に生息する生き物・植物などに興味を持つことができた。</p>

3年

【総合】「大豆の種まき」

地域の方から大豆の種の植え方を学び、学校の畑に大豆の種を植えた。初めて見る大豆の種や、土の感触に興味津々な様子だった。11～12月頃に収穫をする。



4年

【社会】「ごみのしよりと活用」～ごみ収集車の見学～

町のごみを集める仕事をしている方々にお越しいただき、ごみ収集車を運動場に停めていただいた。子どもたちからの質問に答えていただいた後、子どもたちは目の前でごみ収集車が動く様子を見たり、働く人の安全を守るための緊急停止ボタンがどこについているかを教えていただいたりした。代表の子どもが、緊急停止スイッチを足で蹴る体験もさせていただいた。最後にごみ収集車を近くで見せてもらい、いろいろな発見をすることができた。運転席に座った子どもたちもいた。今回、ごみ収集車の仕組みや工夫を知ったり、ごみを収集している時の様子や気持ちなどを聞いたりしたことにより、「ごみをなるべく分けるようにしたい」という気持ちに変わった子どもたちがたくさんいた。



【社会】「ごみのしよりと活用」～清掃工場の見学～

ごみ収集車によって集められたごみがどこへ行き、どのように処理されるのかを学習するために、伊勢広域環境組合清掃工場の見学へ行った。燃やせるごみを搬入するごみピットや、その他プラスチック容器を手作業で確認し、大きなかたまりを作る機械など、さまざまな場所を見学し、担当者の方に説明していただいた。説明の中で、子どもたちに何回も伝えていただいた言葉は「ルールを守ること」だった。リサイクルプラザでは、分別されたビンやペット



ボトル、燃やしたあとの灰などがどのように有効利用されているかを教えてもらった。また、いらなくなった食器などをリサイクルプラザに持って行き、必要としている人が安い値段で買えることに興味を持っている様子だった。

これらの学習をふり返り、自分にもできるごみを減らす取組を考え、子どもたち同士で交流したり、学級通信で保護者にも紹介したりした。子どもたちからは、「分別やリサイクルをする」「ご飯を残さず食べる」「水きりをする」「紙は小さく丸めて捨てる」「最後まで使い切る」「ごみを作らない」などの意見が出た。

5年

「祓川水質調査」

むらおこし・さいくう祓川団体の協力のもと、祓川での生物調査を行った。事前学習では、祓川についてや、川に住む生物の説明をしていただいた。現地学習では、実際に祓川に出向いて、川に入り、網を使って生物を捕り、調査をした。生き物を分類し、川の水質は「ややきれい」であることが分かった。生き物だけでなく、ごみが捨てられているのにも気付いた。この学習を通して、もっとごみのない川にしたい、水質をきれいにしたいといった意見が出て、これからも祓川の自然を守っていきたいという意識を持つことができた。



【総合】「野外活動」

シーカヤック体験を通し、海辺の環境について学ぶために、志摩自然学校へ野外活動に行った。当日は、天候が悪く、シーカヤックは中止となった。しかし、シェルクラフト体験を行ったあと、担当者の方にSDGsにまつわる話を聞かせていただいた。地球温暖化が進み、海水温の上昇による伊勢えびやアワビなどの漁獲量が減っている話や、マイクロプラスチックによる海の汚染問題の話を聞き、節電やごみのポイ捨てをしないなど、私たちにできることを考える機会となった。

